

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

# 設立財団ニュースレター

## Vol.24

2021年 9月 24日発行

知床ネイチャーキャンパスpresentsオンライントークセッション

## 知床で生きる、働く 一地域の自然と人をつなぐ活動とは？

を開催しました



2021年9月9日、知床ネイチャーキャンパスpresents オンライントークセッション「知床で生きる、働く一地域の自然と人をつなぐ活動とは？」を開催しました。

これまで当財団が開催してきたフォーラムなどとは少し切り口を変えて、実際に知床で自然と人をつなぐ仕事・活動を行っているスピーカー3人に活動をご紹介いただきました。後半のトークセッションでは敷田麻実・北陸先端科学技術大学院大学教授がコーディネーターを務め、チャットを使って参加者の皆さんと交流しながら、3人の活動の共通性を考えたり、自然と人をつなぐ活動の先に目指すものについて議論を深めたり、活発な意見交換が行われました。

野生生物保護管理分野はもちろん、様々な分野の学生、社会人の方にご参加いただきました。チャットを使っての質問や意見、終了後のアンケートにも多数感想を寄せていただき、本当にどうもありがとうございました。

### ★スピーカー



#### 村上 晴花 さん

北こぶしリゾート広報・CSR 担当。知床ゴミ拾いプロジェクト代表



#### 秋葉 圭太 さん

公益財団法人知床財団公園事業推進プロジェクトリーダー・研究員



#### 三浦 一輝 さん

斜里町立知床博物館学芸員 博士（環境科学）

### ★コーディネーター



#### 敷田 麻実 さん

北陸先端科学技術大学院大学教授 知床世界遺産科学委員会適性利用・エコツーリズムWG座長

日 時：2021年9月9日（木）19：00～21：00

方 法：オンライン（Zoomによる）

参加者：51人

北海道から沖縄県まで全国各地からお申し込みがあり、大学生・大学院生30人、社会人21人にご参加いただきました。

詳細とアンケート結果は次号のニュースレターに掲載します。

## 知床ネイチャーキャンパスOB・OG インタビュー

2016年度から始まった知床ネイチャーキャンパス（20年度はオンライン開催）。過去5回の受講生は延べ100人以上となりました。現在社会人や学生として活躍されているOB・OGの皆さんに、オンライン（Zoom）で現在の仕事やネイチャーキャンパスの思い出をお聞きしました。今回は三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社・阿部達生さんと、株式会社ピッキオ・大池安希子さんのインタビューを掲載します。（聞き手・事務局 竹川智恵）

### 1. 阿部 達生 さん （2016年度受講生・三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)研究員）

ー現在の仕事内容を教えてください。

官公庁や地方自治体、民間企業の調査委託業務や政策立案支援を行っています。総合シンクタンク企業なので、経済や福祉など様々な分野がありますが、私は特に農林水産業の振興と環境保全、生物多様性の主流化（※1）を担当しています。

昨年（2020年）は環境省からの委託事業で、「生物多様性民間参画事例集」などの資料作成を担当しました。これまで多くの企業はCSRやボランティアの形で生物多様性保全に取り組んできましたが、今後はもっと本業の中でどう生物多様性に配慮していくかが求められています。多くの企業に持続的に取り組んでほしいとの思いから、先進的な事例などを紹介したパンフレットです。

自然資源と密接に関わる業界として、食品や製紙産業などが挙げられますが、どうしても生物多様性と遠い業種も多くある。一方で、生物多様性と関わりが深いはずの農林水産業で遅れている取り組みが、自動車産業では海外基準に照らして先進的に取り入れられている場合もある。各業種の特徴を踏まえて、どうしたら取り組みを進めてもらえるかを考えてきました。

また環境省が公表している民間参画ガイドライン改訂のための基礎的な調査業務も担当しました。環境省は先進的な取り組みを支援して引き上げていく一方で、普及啓発を通して裾野を広げ、今まで生物多様性保全とあまり関わりのなかった企業を巻き込むことも重要と話しています。みんなが使える、裾野を広げるガイドラインを作っていこうとの思いで取り組んできました。ガイドラインはまだ改訂作業中ですが、事例集は環境省のホームページで公開されています（※2）



知床ネイチャーキャンパス2016に参加する阿部さん（右）

ーどうしてこの進路を選ばれたのですか？

自然環境をどう持続的に生かしていくかに興味があり、官公庁かシンクタンクでかなり悩みました。シンクタンクは現場や企業、研究者、官公庁などをつなぐ役割で、よりいろいろな方とコミュニケーションを取りながら、自分の関心がある仕事ができるかなと考えました。

実際に現場に行ける機会も結構あります。例えばICTを活用したスマート農業の調査研究の事例では、農家さんが様々な課題を抱えている中、新しい技術で地域独自の農業を作っていきたいという熱い思いをお聞きし、地域の中でどんな技術が必要か、何が求められているのかを感じることができました。農家さんや行政担当者とお話をし、技術を分析し、施策への反映を検討しています。

環境分野、農林水産分野の施策については、所管する省庁の方がやはり詳しい。私たちのような民間企業は幅広い知識が求められるので、そこがやりがいであり、大変な部分でもあります。

一知床ネイチャーキャンパス2016で印象に残っていることは何ですか？

岩尾別川の砂防ダムを見たことが印象に残っています。元々河川に興味があって、ダムの改良は有名でしたが、実際に現場を見たのは初めてだったので、すごく感動しました。

またグループワークでは、ヒグマと共存するためのルールを効果的に伝え、守ってもらう手法を提案する内容だったのですが、知床財団の増田事務局長（当時）からここが面白いね、ここが難しいねと講評をいただいたのが印象に残っています。実際に働いている人たちの言葉は重いので、すごく勉強になりました。現場目線の視点だ！と感銘を受けた記憶があります。私が受けてきた実習では、現場の人たちからすぐフィードバックがくる経験があまりなかったので新鮮でした。

ネイチャーキャンパスの魅力は講義と実習がリンクしていることだと思います。講義で学んだことが実習でそのまま出てくる。大学でも現場で実施する実習はありますが、知床という豊かな生態系の中であれだけ密度濃くできるのは、ネイチャーキャンパスならではのようです。



岩尾別川での実習（知床ネイチャーキャンパス2016）

阿部 達生（あべ・たつお）

1993年、東京都練馬区出身。高校の修学旅行で訪れた札幌の広大なキャンパスに憧れ、北海道大学へ。農学部の生態系管理学研究室（中村太士教授）で、河川に生息する水生昆虫の研究を行う。その後東京大学大学院に進学して水生昆虫の基礎生態の研究を継続し、2019年3月に東京大学大学院農学生命科学研究科修了。同年4月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に入社。北大4年時に知床ネイチャーキャンパス2016に参加。

一知床ネイチャーキャンパス受講後、知床の印象は変わりましたか？

調査で帯広や中標津には行ったことがありましたが、知床はネイチャーキャンパスが初めてでした。国立公園で人気の観光地ですし、自然豊かとはいえちゃんと人の手が入っているのだろうと思っていましたが、知床岬など、手付かずの自然がこんなに残っているんだと印象が変わりました。

実際にヒグマやエゾシカの問題を目の当たりにして、こんなに人が訪れる場所なのにリアルタイムで問題が起こっていて、微妙なバランスで成り立っている。人と野生動物が共生している場所なんだということも強く感じました。

※1 生物多様性の保全と持続可能な利用の重要性が、国、地方公共団体、事業者、NPO・NGO、国民などの様々な主体に広く認識され、それぞれの行動に反映されること（生物多様性民間参画事例集より）。2010年愛知県名古屋市で行われた国連の生物多様性条約締約国会議（COP10）をはじめ、その後のCOP13、COP14でも生物多様性の主流化が議論、要請されている。

※2 環境省ホームページ「みんなで学ぶ、みんなで守る生物多様性」[http://www.biodic.go.jp/biodiversity/private\\_participation/index.html](http://www.biodic.go.jp/biodiversity/private_participation/index.html)

「生物多様性民間参画事例集」  
[http://www.biodic.go.jp/biodiversity/private\\_participation/guideline/jireisyu.pdf](http://www.biodic.go.jp/biodiversity/private_participation/guideline/jireisyu.pdf)



## 2. 大池 安希子 さん (2019年度受講生・株式会社ピッキオ)



知床ネイチャーキャンパス2019に参加する大池さん(中央)

### ー現在の仕事内容を教えてください。

長野県軽井沢町でネイチャーツアー事業などを行う株式会社ピッキオに、2020年4月に入社しました。ツアーガイドのほか、夏期のアルバイトさんのサポート業務なども担っています。隣接する国設野鳥の森でのツアーのほか、夏はファミリー向けの川遊びツアーや、ムササビウォッチングなど様々なメニューがあり、首都圏のお客さんをメインにガイドしています。

ここでのツアーは、先人の方々がツアー化してきた流れを継承して行っていますが、同じ森でも毎日変化があるのが面白いです。動物を定期的に見ていると、こんな姿初めて見た！ということが多々あります。例えばシカは今あまり珍しくない動物ですが、季節によって子供が生まれたり、授乳したり、成長してきました。2時間ほどのツアーでもお客さんと距離が縮まれば嬉しいですし、ツアー後のアンケートにプラスのコメントがあるとやりがいを感じます。

ホテルに隣接しているエリアでは、ホテルの敷地内で虫捕りしたり、木の実を拾ったり、アスレチックで遊んだりする子供向けのプログラムがあるのですが、初めましての子供たちをうまくまとめて楽しんでもらうのが難しく、ガイドのスキルを勉強中です。

ピッキオには私が所属するネイチャーツアーなどを行う部門と、ツキノワグマの調査や保安全管理を行う部門があります。知床にも事業展開していて、斜里町ウトロに事務所があります。

### ーどんな経緯で入社されたのですか。

自然の中で働きたい気持ちが第一で、自然環境系の職種を調べていくと、環境コンサルタントやアセスメントの職がほとんどでした。学芸員の資格も取ったので博物館や動物園も探しました。それ以外は会社を一つ一つ調べていくしかない。私は自然がおもしろい、好きという気持ちを誰かと共有するような仕事に就きたかったので、それが叶うような企業の採用情報をインターネットで探しました。

ピッキオについては、最初大学の先生が授業で取り上げていて、その後自分で調べてみるとちょうど採用がありました。これは聞くしかない！と思って連絡すると事務の方からインターンシップがありますと言われ、4年生の春に10日間ほどインターンに行きました。仕事を体験して、社員さんとも話をし、そのまま採用試験を受けて合格することができました。ピッキオに落ちていたら大学院に進んでいたと思います。

「この分野の仕事がないのですが・・・」と、友達や先輩に相談、情報共有しながらの就職活動でした。同じことを思っている人はたくさんいると思います。

### ー知床ネイチャーキャンパス2019で印象に残っていることは何ですか？

就職活動をしている際、先輩にjeconet(※1)というメーリングリストを教えてもらいました。ネイチャーキャンパスの募集はそこで知りました。夏休み期間で帯広から近いし、北海道にいる最後の年だし、今後の役に立つと思って参加しました。

知床には観光で2、3回訪れたことがありましたが、歴史的なことは知りませんでした。ネイチャーキャンパスでは100平方メートル運動地を実際に歩き、知床財団の方の話や話を聞くと、エリアの特徴や課題などずっと入ってくるものがありました。パネルや施設はあっても、観光だと歴史的な部分はなかなか入ってこなかったのです。

また短期間でエネルギーを集中して、みんなで協力して発表まで持っていくグループワークは大変でしたが、とてもよい経験になりました。私はリーダー役になり、経験ある社会人の方の意見、意欲は高いけれど知識が浅い学生の意見、いろいろな意見をまとめるのが難しかったです。でもこのような能力はどこでも役立つ能力で、とてもいいスタイルだと思います。



オープンキャンパスで発表する大池さん（右）

## 大池 安希子（おおいけ・あきこ）

1998年、北海道帯広市出身。父が獣医師で幼いころから動物と親しみ、遊びに連れて行ってくれたのが川や森だったので自然好きに。帯広畜産大学では環境生態学ユニット昆虫生態学研究室に所属し、コガネムシの研究を行った。2020年4月に株式会社ピッキオに入社。帯広畜産大4年時に知床ネイチャーキャンパス2019に参加。

## ■ 知床ネイチャーキャンパス・リカレントを開催します（予告）

2022年2月：オンライン講義（2日間）

2022年6月：現地実習・演習

テーマ（仮）

「科学的保護管理システムの構築と実践」

=世界自然遺産地域の経験を全国へ=

対象：全国で生物多様性保全や利用と保護を

テーマに実務に携わっている皆様

## ーネイチャーキャンパス受講後、知床の印象や自分自身に変化はありましたか？

最初は漠然と、自然がたくさんある知床で何かをしようと思っていてそれ以上の意識はありませんでした。知床には自然や観光資源がたくさんあるから人が来て、自然を楽しんで、たまにクマやシカに出会って帰っていく。それ以上はない、何も問題はないと思っていました。ただそこには野生動物への餌やり問題、観光客はクマに会いたいと思って来ているけれど会わないでほしいという矛盾などがある。受講前は全くわかりませんが、受講後はこのような問題が日本の他の地域でも、海外でもあるような気がして、見方や考え方が変わりました。

※1 生態学全般にわたるメーリングリスト。学生から社会人まで幅広い人が参加し、生態学に関する情報交換を行っている。

◎内容詳細や募集についてはホームページやSNS、次号のニュースレターでお知らせします！

## 令和 2 年度事業報告

**= 概要 =** 財団設立から 8 年目、公益財団法人認定から 7 年目の令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の様々な制約の中、定款に沿った公益目的事業の取り組みや公益法人制度に則った正確な組織運営に努めました。

- ◎計画策定事業では、設立を目指す教育機関の教育プログラムや教育課程などについて、計画策定専門委員会での議論を行い、加えて日本学術会議の回答を受けて設置された国と専門家による「野生動物管理教育プログラム検討会」に参画。その方向性も踏まえて検討を継続しました。
- ◎教育活動の実践を通して必要な教育プログラムを検討し、計画策定に生かすため、オンライン講義とディスカッションを行う「知床ネイチャーキャンパス・ネクスト」を開催しました。
- ◎ニュースレターの発行とホームページへの情報掲載のほか、SNS を利用した広報活動を展開しました。
- ◎絶滅危惧種の保護増殖事業計画に基づく「オジロワシ・オオワシ保護増殖事業 越冬個体数等調査業務」を環境省より受託し、当財団の調査研究事業の一環として実施しました。
- ◎関係機関への報告や意見交換の場はオンラインの活用などにより、理解と協力の継続と拡大を図りました。賛助会員や支援者・支援企業からは支援の継続を得られ、共催事業の実施や情報共有を通して支援拡大に努めました。

### I 公益事業

#### 1 知床自然大学院大学設立準備事業

##### (1) 知床自然大学院大学計画の策定と専門委員会の開催

計画策定専門委員会は、令和 2 年度より金子正美委員、湯本貴和委員を加え、13 名体制となりました。会議ではネイチャーキャンパス受講生のアンケート結果、その他の活動や国の検討会の状況等を報告し、今後の活動方針、特に教育体制の確立と教育プログラムの本格実施へ向けた考え方や行程について議論しました。

**第 10 回計画策定専門委員会**                      日 時：2021 年 3 月 11 日(木)  
 オンライン開催 (Zoom による)              参加者：委員 11 名

#### 知床自然大学院大学設立財団 計画策定専門委員

委員長	梶 光一	東京農工大学名誉教授・知床自然大学院大学設立財団理事
副委員長	中村 太士	北海道大学大学院農学研究院教授
委員	金子 正美	酪農学園大学環境共生学類教授
委員	小林 万里	東京農業大学生物産業学部教授
委員	桜井 泰憲	北海道大学名誉教授
委員	鈴木 正嗣	岐阜大学応用生物科学部教授
委員	敷田 麻実	北陸先端科学技術大学院大学教授
委員	曾野 知雄	レスコム北海道合同会社代表
委員	中川 元	元知床博物館館長・知床自然大学院大学設立財団業務執行理事
委員	松田 裕之	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
委員	横山 真弓	兵庫県立大学自然環境科学研究所教授
委員	湯本 貴和	京都大学教授・京都大学霊長類研究所長
委員	吉田 正人	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
オブザーバー	大泰司紀之	北海道大学名誉教授・知床自然大学院大学設立財団評議員
オブザーバー	渡辺 綱男	元環境省自然環境局長・知床自然大学院大学設立財団顧問
オブザーバー	田中 俊次	東京農業大学名誉教授・知床自然大学院大学設立財団代表理事



## 2 普及啓発・広報事業及び調査研究事業

### (1) 「知床ネイチャーキャンパス・ネクスト」の開催

第1部 絶滅危惧種の保護＝人に影響される生息環境＝  
日 時：2021年3月13日(土) 13:30～17:00

第2部 科学的保護管理とは＝世界遺産地域から全国へ＝  
日 時：2021年3月14日(土) 13:30～17:20

方 法：Zoomによるオンライン講義とディスカッション

講 師：齊藤慶輔、早矢仕有子、梶光一、中村太士、  
敷田麻実、鈴木正嗣、中川元

受講生：27名

→北海道内外の大学で生物学や森林科学、環境科学、地域システム学などを専攻する学生・大学院生23名と、環境系の業務に携わる社会人や教員など4名が参加しました。

新型コロナウイルス感染症の全国的な流行のため、知床に集合する現地実習や演習のプログラム開催が困難となり、オンラインによる講義とディスカッションに絞って開催しました。1日目は第1部の3講義、2日目は第2部の4講義を行い、質疑応答やディスカッションも活発に行われました。



### (2) 「設立財団ニュースレター」の発行

令和2年度はニュースレターを2回発行し、賛助会員や関係者に送付するとともに、ホームページにPDF版を掲載しました。

＜第21号＞ 2020年9月15日発行 16p  
野生動物管理の人材養成体制の展望と教育プログラムの作成について(梶光一当財団理事)、理事会・評議員会開催報告、財団のおすすめ図書紹介、令和元年度事業報告他。

＜第22号＞ 2021年2月28日発行 8p  
「知床ネイチャーキャンパス・ネクスト」の開催案内、第1回自然観察会「西岡水源地」開催報告、知床ネイチャーキャンパス2016~2019年受講生アンケート結果、財団のおすすめ図書紹介他

### (3) ネットを活用した広報活動

#### ＜ホームページの運用＞

活動を紹介する主要な場として運用し、行事の案内や活動の結果報告を掲載しました。設立趣旨や定款・役員等の基本情報や、各年度の事業計画・事業報告、予算書・決算書等の情報公開、ニュースレターの各号の公開をホームページの中で行いました。

#### ＜公式ブログの更新とSNSの活用＞

ブログでは知床の自然と産業に関する紹介や行事の案内等を行いました。SNSはFacebookとTwitterを継続運用し、行事案内や知床の自然・野生生物に関する話題など幅広い情報を提供。令和2年度もフォロワーは順調に伸び、賛助会員や支援者を繋ぐツールとして、また、野生生物や人材養成に関心を持つ幅広い皆さんとの交流や情報交換の場となりました

#### (4) パンフレット、行事案内チラシの活用

活動の理解と支援者の拡大を目的に、知床ネイチャーキャンパスの4年間の活動を中心に紹介した新たなパンフレット「知床でワイルドライフマネジメントを担う人材養成を進めます！」を作成し、普及に努めました。



#### (5) 調査研究事業

全国的にオンライン授業が展開され、遠隔授業に関する技術が急速に普及したため、これらに関するシンポジウムに積極的に参加。オンライン教育と現場実習との組み合わせによる効果的な教育プログラム策定のための情報収集と調査を始めました

環境省による令和2年度「オジロワシ・オオワシ保護増殖事業越冬個体数等調査業務」を調査事業の一環として受託し、実施しました。調査目的は、絶滅危惧種鳥類として国内希少野生動植物種に指定されているオジロワシとオオワシの生息状況を調査し、保護増殖のための基礎資料とするものでした。

北海道全域で11～3月の5ヶ月間、両種の越冬個体数と分布の変化、越冬生態等が詳しく調べられました。現地調査は各地で鳥類調査や保護活動を長年行ってきた団体やグループが担い、全道7エリア20地域、約170の調査区で実施されました。本調査が広域的ネットワークのもとに実施されたことは、絶滅危惧種の保全に寄与することはもちろん、「野生生物保護管理」の現場を担うネットワーク体制がさらに強化され、当財団が目的とする野生生物保護と人との共存の重要性を広く発信することにつながりました。



(上) オジロワシ (下) オオワシ

## II 理事会及び役員等に関する報告

### 1 理事会

#### <令和2年度第1回理事会>

(定款第36条に基づく「決議の省略」による)

理事会の決議があったと見なされた日：2020年6月4日

- 決議事項** 第1号議案 「令和元年度(2019年度)事業報告書(案)」承認の件  
第2号議案 「令和元年度(2019年度)決算報告書(案)」承認の件  
第3号議案 令和2年度第1回評議員会(定時)招集の件

以上、原案通り可決しました。



### <令和2年度第2回理事会>

開催日時：2020年6月20日（土）午後4時より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催

**決議事項** 第1号議案 代表理事及び業務執行理事の選任  
第2号議案 顧問の選任  
以上、原案通り可決しました。

**報告事項** 1. 代表理事及び業務執行理事の業務執行報告  
2. 賛助会員の加入状況及び募金の状況について

**協議事項** 1. 今年度以降の業務展開について

### <令和2年度第3回理事会>

開催日時：2021年3月21日（金）午後1時30分より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催

**決議事項** 第1号議案 「令和3年度（2021年度）事業計画（案）」承認の件  
第2号議案 「令和3年度（2021年度）収支予算（案）」承認の件  
以上、原案通り可決しました。

**報告事項** 1. 代表理事・業務執行理事の業務報告  
2. 賛助会員の加入状況・募金の状況  
3. 「知床ネイチャーキャンパス・ネクスト」の開催結果報告  
4. 道央圏の賛助会員・支援者対象イベントの開催状況報告  
5. 「野生動物保護管理教育プログラム検討会」への出席状況について

**協議事項** 1. 次年度以降の事業展開と資金確保について

## 2 評議員会

### <令和2年度第1回評議員会（定時）>

（定款第20条に基づく「決議の省略」による）

評議員会の決議があったと見なされた日：2020年6月20日

**決議事項** 第1号議案 「令和元年度（2019年度）事業報告書（案）」承認の件  
第2号議案 「令和元年度（2019年度）決算報告書（案）」承認の件  
第3号議案 評議員選任の件  
第4号議案 評議員長選任の件  
第5号議案 理事・監事選任の件

書面による同意の意思表示によって可決しました。

## 知床自然大学院大学設立財団 役員名簿

### 理事・監事

2021年(令和3年)3月31日現在

代表理事	田中 俊次	東京農業大学名誉教授	2013年1月22日～
業務執行理事	中川 元	元知床博物館館長	2013年1月22日～
業務執行理事	上野 雅樹	知床ユネスコ協会理事	2013年1月22日～
理事	家村 充尋	知床ユネスコ協会会員	2013年1月22日～
理事	石川 勝	羅臼町前教育委員長	2014年6月 8日～
理事	梶 光一	東京農工大学名誉教授	2013年1月22日～
理事	笠井 文考	会社社長・東京農業大学非常勤講師	2018年6月10日～
理事	金澤 裕司	羅臼町教育委員会自然環境教育主幹	2013年1月22日～
理事	鈴木 幸夫	会社員・在日外国人支援団体理事	2013年1月22日～
理事	滝澤 大徳	知床山考舎代表	2014年6月 8日～
理事	中田 尊徳	会社社長・斜里青年会議所元理事長	2016年6月12日～
理事	中村 康江	主婦	2020年6月20日～
理事	三宅 雅久	北海道ふるさと会連合会理事	2014年6月 8日～
監事	木村耕一郎	斜里町議会議員	2013年1月22日～
監事	廣川 昭廣	税理士	2013年1月22日～

### 評議員

2021年(令和3年)3月31日現在

評議員	上野 洋司	前知床斜里町観光協会会長	2013年1月22日～
評議員	大泰司紀之	北海道大学名誉教授	2020年6月20日～
評議員	午来 昌	元斜里町長	2013年1月22日～
評議員	齋藤 卓也	元北海道環境財団専務理事	2020年6月20日～
評議員	鈴木 眞吾	元斜里町教育委員長	2013年1月22日～
評議員	土橋 利文	斜里町商工会会長	2013年1月22日～
評議員	深山 和彦	ウトロ漁業協同組合代表理事組合長	2013年1月22日～

### 顧問・相談役

2021年(令和3年)3月31日現在

顧問	石 弘之	環境問題研究家	2020年6月20日～
顧問	唐沢 敬	国際研究インスティテュート (IIS) 代表 立命館大学名誉教授	2020年6月20日～
顧問	松浦晃一郎	中部大学客員教授 元ユネスコ事務局長(第8代)	2013年1月22日～
顧問	渡辺 綱男	自然環境研究センター上席研究員 元環境省自然環境局長	2013年1月22日～
相談役	丹保 憲仁	北海道立総合研究機構前理事長 北海道大学名誉教授(第15代総長)	2013年1月22日～

### III 法人の運営状況について

#### 1 事務局の状況

常勤の業務執行理事 1 名と非常勤の事務局長（理事） 1 名、常勤の事務局員 1 名による運営体制としています。また、必要に応じて代表理事及び業務執行理事が事務局における決裁業務を職掌しているほか、会計処理や決算においては理事 2 名が在宅で事務局をサポートしています。会計処理の正確性と効率化を図るため、平成 26 年度より会計ソフトを導入しました。

#### 2 ファンドレイジングの状況（賛助会員と寄附金について）

	種別	予算（件数）	予算（金額）	実績（件数）	実績（金額）
賛助会員	個人	200	1,000,000	101	505,000
	団体	15	150,000	5	50,000
	法人・法人特別	80	4,000,000	35	1,340,000
	小計	295	5,150,000	144	1,895,000
寄附金		---	4,850,000	26	735,080
	合計	---	10,000,000		2,630,080
大学院設立資金	目標額	---	495,000,000		0

賛助会員の新規募集と寄付金の要請は、コロナ禍のため要請行動は自粛せざるを得ず、役員及び事務局からの依頼やパンフレットの送付による案内を行いました。また、主催事業や関係イベント等でのパンフレット配布やホームページの活用、SNS を利用した広報活動を行いました。

令和 2 年は新規賛助会員の加入を得た一方で、会員継続されなかった会員があったため、賛助会員数、金額ともに前年度をやや下回る結果となりました。一般寄付金はコロナ禍で企業活動が停滞する経済情勢の中、前年度より件数、金額ともに大幅に落ち込みました。

次ページより、令和 2 年度決算書類（貸借対照表、正味財産増減計算書）を掲載しました。



貸借対照表 令和3(2021)年3月31日現在

資産の部

流動資産	当年度	前年度	増減	(単位:円)
現金・預金	1,023,168	881,550	141,618	
未収金	3,168,000	0	3,168,000	
立替金	2,379	3,307	△ 928	
仮払金	46,556	41,855	4,701	
<b>流動資産合計</b>	<b>4,240,103</b>	<b>926,712</b>	<b>3,313,391</b>	
固定資産				
基本財産				
定期預金	3,000,000	3,000,000	0	
<b>基本財産合計</b>	<b>3,000,000</b>	<b>3,000,000</b>	<b>0</b>	
特定資産				
大学院設立資金(定期預金)	2,536,368	2,536,240	128	
大学設立資金(その他)	80,000	80,000	0	
<b>特定資産合計</b>	<b>2,616,368</b>	<b>2,616,240</b>	<b>128</b>	
その他固定資産				
保証金	60,000	60,000	0	
その他固定資産合計	60,000	60,000	0	
<b>固定資産合計</b>	<b>5,676,368</b>	<b>5,676,240</b>	<b>128</b>	
<b>資産合計</b>	<b>9,916,471</b>	<b>6,602,952</b>	<b>3,313,519</b>	

負債の部

流動負債			
未払費用	2,691,454	24,670	2,666,784
前受金	25,000	45,000	△ 20,000
預り金	5,865	30,343	△ 24,478
未払法人税等	20,000	20,000	0
<b>流動負債合計</b>	<b>2,742,319</b>	<b>120,013</b>	<b>2,622,306</b>
<b>負債合計</b>	<b>2,742,319</b>	<b>120,013</b>	<b>2,622,306</b>

正味財産の部

指定正味財産			
寄付金	2,615,600	2,615,600	0
受取利子	768	640	128
<b>指定正味財産合計</b>	<b>5,616,368</b>	<b>5,616,240</b>	<b>128</b>
(うち基本財産への充当額)	(3,000,000)	(3,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(2,616,368)	(2,616,240)	(128)
<b>一般正味財産</b>	<b>1,557,784</b>	<b>866,699</b>	<b>691,085</b>
<b>正味財産合計</b>	<b>7,174,152</b>	<b>6,482,939</b>	<b>691,213</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>9,916,471</b>	<b>6,602,952</b>	<b>3,313,519</b>

正味財産増減計算書 令和2(2020)年4月1日 - 令和3(2021)年3月31日

一般正味財産増減の部

経常増減の部

(単位:円)

経常収益	当年度	前年度	増減
基本財産運用益	255	255	0
受取会費	1,895,000	2,125,000	△230,000
賛助会費(個人)	505,000	525,000	△20,000
賛助会費(団体)	50,000	40,000	10,000
賛助会費(法人)	1,340,000	1,560,000	△220,000
受取寄付金	735,080	2,480,112	△1,745,032
一般寄附金	734,080	2,335,172	△1,601,092
管理指定寄付金	1,000	144,940	△143,940
受取補助金等	285,000	0	285,000
事業収益	3,168,000	0	3,168,000
雑収益	5	76,005	△76,000
普通預金受取利息	5	5	0
その他収益	0	76,000	△76,000
<b>経常収益計</b>	<b>6,083,340</b>	<b>4,681,372</b>	<b>1,401,968</b>

経常費用

<b>事業費</b>	<b>4,789,290</b>	<b>3,688,887</b>	<b>1,100,403</b>
役員報酬	630,000	630,000	0
給与手当	463,910	873,050	△409,140
福利厚生費	35,000	92,980	△57,980
会議費	0	16,280	△16,280
旅費交通費	1,829,560	871,994	957,566
通信運搬費	514,756	256,341	258,415
消耗品費	552,844	70,753	482,091
修繕費	34,881	80,405	△45,524
印刷製本費	226,179	220,740	5,439
水道光熱費	79,305	61,119	18,186
事務所賃借料	218,731	213,323	5,408
会場賃借料	0	51,100	△51,100
リース料	67,716	46,008	21,708
保険料	6,128	5,661	467
諸謝金	34,000	110,000	△76,000
委託費	70,000	43,200	26,800
広告宣伝費	0	19,554	△19,554
支払手数料	16,280	16,379	△99
支払負担金	10,000	10,000	0
<b>管理費</b>	<b>602,965</b>	<b>1,171,856</b>	<b>△568,891</b>
役員報酬	210,000	210,000	0
給与手当	154,637	291,017	△136,380
福利厚生費	11,666	30,993	△19,327

会議費	0	2,124	△2,124
旅費交通費	5,380	346,216	△340,836
通信運搬費	49,177	44,146	5,031
消耗品費	1,203	16,133	△14,930
修繕費	11,627	26,801	△15,174
印刷製本費	8,774	40,861	△32,087
水道光熱費	26,435	20,373	6,062
事務所賃借料	72,910	71,108	1,802
会場賃借料	560	640	△80
リース料	22,572	15,336	7,236
減価償却費	0	28,525	△28,525
支払手数料	4,524	6,483	△1,959
租税公課	23,500	21,100	2,400
<b>経常費用計</b>	<b>5,392,255</b>	<b>4,860,743</b>	<b>531,512</b>
評価損益等調整前			
当期経常増減額	691,085	△179,371	870,456
評価損益等計	0	0	0
<b>当期経常増減額</b>	<b>691,085</b>	<b>△179,371</b>	<b>870,456</b>

経常外増減の部

経常外収益計	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>691,085</b>	<b>△179,371</b>	<b>870,456</b>
一般正味財産期首残高	866,699	1,046,070	△179,371
<b>一般正味財産期末残高</b>	<b>1,557,784</b>	<b>866,699</b>	<b>691,085</b>

指定正味財産増減の部

	当年度	前年度	増減
受取寄付金	0	95,000	△95,000
受取寄付金(大学設立資金)	0	95,000	△95,000
特定資産運用益	128	209	△81
大学院設立資金受取利息	128	209	△81
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>128</b>	<b>95,209</b>	<b>△95,081</b>
指定正味財産期首残高	5,616,240	5,521,031	95,209
<b>指定正味財産期末残高</b>	<b>5,616,368</b>	<b>5,616,240</b>	<b>128</b>
<b>正味財産期末残高</b>	<b>7,174,152</b>	<b>6,482,939</b>	<b>691,213</b>

## 理事会・評議員会報告

### <令和3年度第1回理事会>

(定款第36条に基づく「決議の省略による」)

理事会の決議があったとみなされた日：2021年5月17日

#### 決議事項

- 第1号議案 「令和2年度(2020年度)事業報告書」承認の件
- 第2号議案 「令和2年度(2020年度)決算報告書」承認の件
- 第3号議案 令和3年度第1回評議員会(定時)の召集の件  
書面による同意の意思表示にて可決しました。

### <令和3年度第1回評議員会>

(定款第20条に基づく「決議の省略」による)

評議員会の決議があったとみなされた日：2021年6月17日

- 決議事項
- 第1号議案 「令和2年度(2020年度)事業報告書」承認の件
  - 第2号議案 「令和2年度(2020年度)決算報告書」承認の件 書面による同意の意思表示にて可決しました。

### <令和3年度第2回理事会>

開催日時：2020年6月5日(土)午後4時より

開催方法：オンライン会議システムを使った  
Web 理事会として開催

#### 決議事項

第1号議案 令和3年度第1回評議員会(定時)の召集の件

#### 報告事項

- 1 代表理事・業務執行理事の業務報告
- 2 「野生動物保護管理教育プログラム検討会」  
への出席状況について

## 知床自然大学院大学設立財団は、**賛助会員、寄附金** を募集しています

#### ■会員の年会費 ※年度ごとの納入となります。

- 個人会員：5,000円
- 団体会員：10,000円
- 法人会員：20,000円
- 法人特別会員：100,000円

#### ■加入申込み方法

「申込書」と「郵便振替用紙」をご使用ください。これらは当財団ホームページからプリントアウトできます(入金は右記口座への入金でも受付しています)



知床自然大学院大学設立財団ホームページ  
賛助会員・寄附金募集ページ  
<http://shiretoko-u.jp/supporter/>

#### ■賛助会員の特典

当財団のニュースレターや絵はがき、講演会やネイチャーキャンパス等の案内情報をお送りします。

#### ■寄附金について

寄附金も随時募集しています。賛助会員加入同様にお申し込みください。

#### ■主な入金口座について

- ゆうちょ銀行 記号 19940 (普) 10138691  
(※他の金融機関から 店名九九八 番号 1013869)
- 北洋銀行斜里支店 店番 452 (普) 3119440
- 北海道銀行斜里支店 店番 904 (普) 0530326
- 網走信金斜里支店 店番 003 (普) 0284957
- 大地みらい信金羅臼支店 店番 003 (普) 1072873

## 設立財団ニュースレター 第24号

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団  
〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10  
TEL 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773 E-mail [sizendaigaku@wine.plala.or.jp](mailto:sizendaigaku@wine.plala.or.jp)  
Web <http://www.shiretoko-u.jp>  
発行日 2021年9月24日